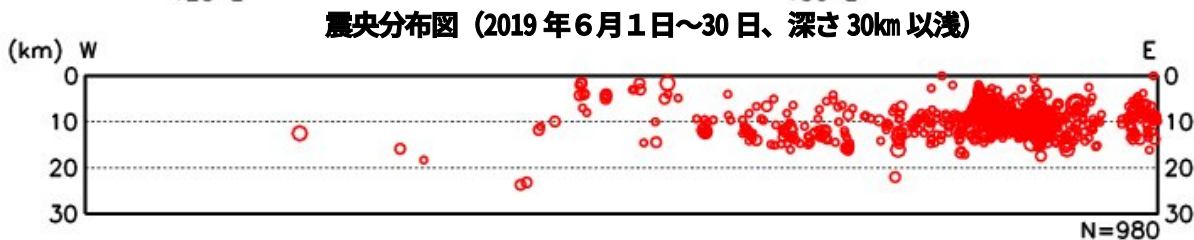
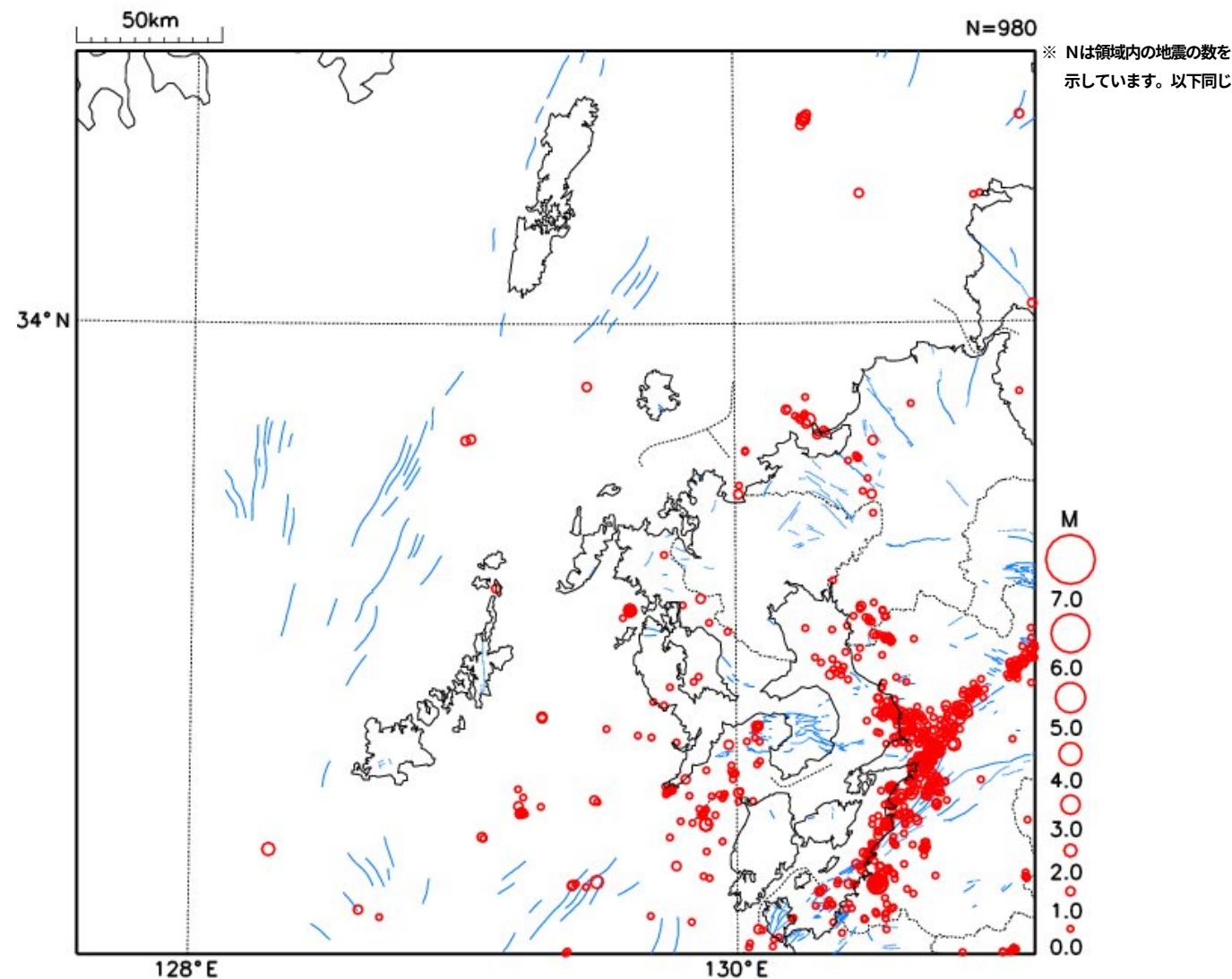


長崎県の地震活動概況（2019 年 6 月）

令和元年 7 月 8 日

長崎地方気象台



地震活動の概況 (2019 年 6 月)

6 月に長崎県内で震度 1 以上を観測した地震はありませんでした (5 月：4 回)。

※ 本資料の震央分布図の青色のラインは活断層を示す (活断層のデータは新編日本の活断層による)。

※ 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点 (河原、熊野座)、米国大学間地震学研究連合 (IRIS) の観測点 (台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東) のデータを用いて作成しています。

海底地震観測データの緊急地震速報への活用について

気象庁は、6月27日から海底地震計の観測データを新たに活用した緊急地震速報の発表を開始しました。

気象庁では、海域で発生する地震に対して発表する緊急地震速報の迅速化を図るため、沖合に設置された海底地震計の観測データの緊急地震速報への活用を進めてきました。

今般、国立研究開発法人防災科学技術研究所が運用している「地震・津波観測監視システム（DONET）」（図1）などの観測データの活用の準備が整ったことから、6月27日からこれらの観測データを新たに活用した緊急地震速報の発表を開始しました。

これにより、紀伊半島沖から室戸岬沖で発生する地震については、最大10秒程度、緊急地震速報（警報）の発表が早まることが期待されます（図2）。

詳細については、気象庁ホームページの報道発表資料（※1）をご覧ください。気象庁では今後も緊急地震速報の改善に取り組んでまいります。

※1 気象庁報道発表資料

<https://www.jma.go.jp/jma/press/1906/21a/ewkatsuyou20190621.html>

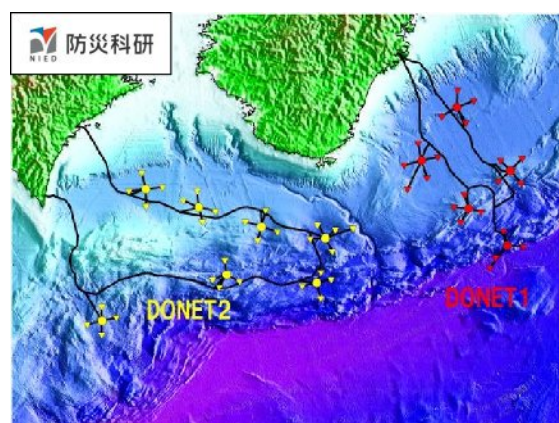


図1 地震・津波観測監視システム（DONET）

DONETはDONET1とDONET2から構成されており、DONET1の一部の観測点のデータについては、平成27年3月末から緊急地震速報に活用しています。

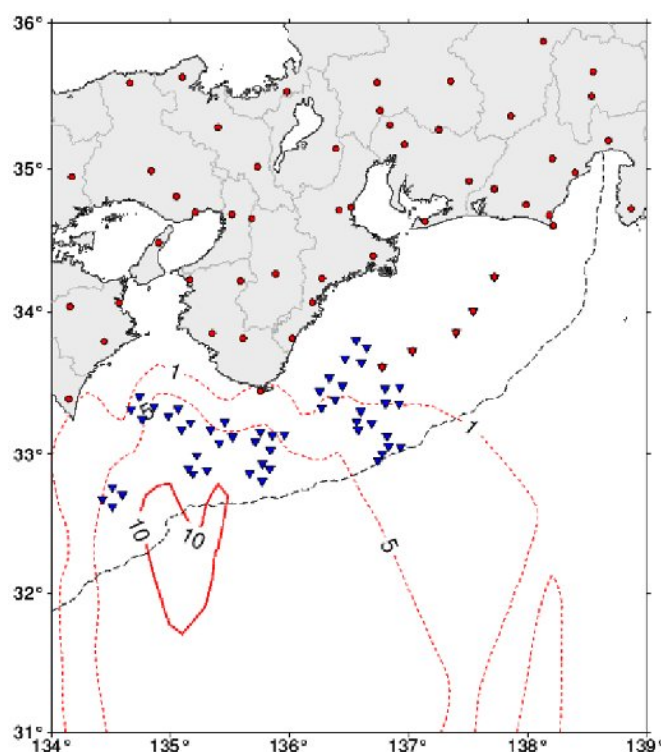


図2 DONETの観測データの活用による効果

図中の値は、その場所で地震が発生した場合に緊急地震速報（警報）がどの程度早まるかを計算した理論上の最大値（秒）を示しています。

津波から命を守るためには ～ すぐ避難！ ～

これから海水浴など海のレジャーシーズンが始まります。魚釣り・海水浴・磯遊びなどで海岸や河口付近にいる場合に地震による揺れを感じたときや、揺れを感じなくても大津波警報・津波警報・津波注意報が発表されたときは、以下のような行動をとることが必要です。

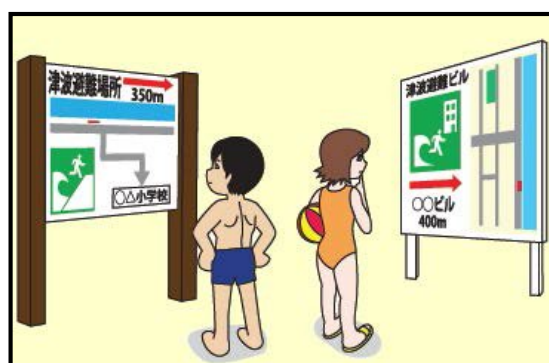
津波のおそれがある時

- ・海辺で地震の揺れを感じたら ➡ 津波警報・注意報を待たずに **ただちに避難！**
- ・地震の揺れを感じていなくても
大津波警報・津波警報 が発表されたら ➡ **ただちに安全な場所に避難！
避難は「より高い所」へ**
- ・地震の揺れを感じていなくても
津波注意報 が発表されたら ➡ **ただちに海から上がって海岸のそばから離れる！**

津波は繰り返し襲ってくるので、大津波警報・津波警報・津波注意報が解除されるまで避難を続けましょう。

海岸・河口付近に来たら

- まず、避難場所や避難経路を確認しておきましょう。
- ラジオ、スマートフォン、携帯電話、防災行政無線などの情報の入手手段を確認し、そこからの情報に注意しましょう。



津波の標識の例

津波のおそれがある地域には、避難場所や避難経路がわかる標識が設置されているところがあります（標識はJIS規格により制定されています）。



津波注意

津波が起きた場合、津波が来襲する危険のある地域を表示



津波避難場所

津波に対しての安全な避難場所（高台）の情報を表示



津波避難ビル

津波に対しての安全な避難場所（避難できるビル）の情報を表示

なお、気象庁が発表する大津波警報・津波警報・津波注意報、津波予報、津波情報に関しては、以下のホームページをご覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/joho/tsunamiinfo.html>